

島根県における主要水産資源に関する資源管理調査

(資源管理調査業務委託事業)

寺谷俊紀・沖野 晃

1. 目的

島根県における主要水産資源の合理的・持続的利用を図るため、県内における漁業種別・魚種別の漁獲動向を把握する。さらに、試験操業によって島根県沖合海域における底魚・浮魚資源の状況を把握し、資源管理手法開発の基礎資料とする。

2. 方法

(1) 漁獲動向の把握

漁業協同組合 J F しまねおよび海士町漁業協同組合に水揚げされる漁獲データを収集・集計した。なお、漁獲動向の把握には、2004 年に開発した漁獲管理情報処理システム¹⁾を使用した。

(2) 資源状況調査

島根県沖合海域における底魚の資源管理手法開発の基礎資料とするため、試験船「島根丸」(以下「島根丸」)を用いて 2022 (令和 4) 年 6 月～2023 (令和 5) 年 2 月に浜田沖および益田沖の水深 112～138 m で、トロール試験操業を 3 航海・6 曳網実施し、主要底魚類の分布や体長組成等の資源状況を調査した。また、トロール試験操業とは別に海洋観測を 8 回実施し、底水温の測定結果を漁業関係者に周知した。

(3) 浮魚情報の提供

「島根丸」による各種調査において航行中に魚群探知機を動作させ、魚群の情報を収集した。

3. 結果

(1) 漁獲動向の把握

漁獲動向については、島根県における主要漁業の漁獲データを毎月集計し、島根県資源管理協議会へ報告した。

(2) 資源状況調査

主要魚種 16 種について、1 曳網当たりの漁獲量は 14～192 kg であった。11 月 17 日の浜田沖では主な漁獲物はアカムツ、スルメイカであったが、11 月 28 日の浜田沖ではマダイ、マトウダイ、2 月 6 日の益田沖ではキダイ、ニギスと、時期と場所で魚種組成が変化した。

(3) 浮魚情報の提供

「島根丸」の航行中に得た魚群探知機の反応について、まき網漁業者に 15 回情報提供した。

4. 成果

調査結果は島根県資源管理協議会へ報告し、漁業者が実施する資源管理の取り組みに利用されている。

5. 文献

1)村山達朗・若林英人・安木 茂・沖野 晃・伊藤 薫・林 博文:島根県水産試験場研究報告第 12 号(2005)